



Do you like **some more ENGLISH?**



2016年の5月より、皆さんに英語という言葉をもっと知ってもらいたい、楽しんでもらいたいと思い「英語通信」を発信してきました。今回で Vol.1 の最終号となります。また、おもしろいトピックスを探り、春から英語通信 Vol.2 をスタートさせますので、お楽しみに！

ご紹介が遅れましたが、Vol.1 の2号から英語通信に参加してくれている「please ちゃん」と「Yeah 君」、すっかり英語通信の仲間となりましたので、今後もメンバーとして活躍してもらいます。



フリースちゃん まじめな優等生。将来、英語を自由自在に扱えるようコツコツ勉強中。

いえ～い君 ちょっとやんちゃで好奇心旺盛、なんでも積極的に参加します。



名詞を説明するもの② ～限定詞～

さて、前回は、名詞につく言葉として「冠詞」の説明をしました。少し復習をしておく、冠詞とは、名詞の前に置かれる a, an, the で、その名詞が「ひとつか」「特定のものか」などを示す役割をします。引き続き、名詞の前につく言葉について考えてみましょう。



名詞を説明すると言えば、形容詞じゃないのですか？たとえば、「赤い」とか「大きい」「甘い」とか・・・？

そうですね、名詞が「人」だとすれば、その人を飾る服やアクセサリにあたるものが形容詞ですね。形容詞は、名詞の性質や状態を説明する言葉です。形容詞以外で、名詞を説明する言葉を思いつきますか？



え～と、「俺の」とか、「あの」とかはどうなんだろう？

素晴らしい！「〇〇の」つまり所有を表す代名詞は名詞の前について、名詞を説明しますね。指示代名詞と呼ばれる「あの」、「この」もそうですね。このように、名詞の前に置かれ、後に続く名詞についての情報を与える言葉をまとめて「**限定詞**」 **determiner** といいます。

★ちょっとここで、覚えておいてほしいことが一つあります。

「大きな赤いリンゴ(一つ)」は何と言いますか？



A big red apple ですよね。

では、「私の大きな赤いリンゴ」は？



My big red apple かな・・・？

では、もう一問「あの大きな赤いリンゴ」は？



That big red apple でしょ。

はい、そうですね。big と red は“どのような”リンゴかということを説明している**形容詞**です。my や that は、リンゴに「私の」とか「あの」という情報を付け加えている**限定詞**です。注意点は、形容詞は、並べていくつも使うことができますが、限定詞は2つを続けて使えないところです。

例えば **a my apple** や **that my apple** とすることができません。



上の例「あの大きな赤い」のように限定詞一つと形容詞なら並べて使えるのだよね。

そうです。「限定詞」という言葉は聞きなれないと思いますが、みんながよく知っているものを少しだけ

紹介しておきましょう。まずは、①冠詞 (a, the) です。そして、②指示限定詞 (this, that, these, those)、③所有限定詞 (my, your, his, her, its, our, their) ④疑問限定詞 (which, whose, what)、否定限定詞 (no)、⑤数量限定詞 (one, two, some, any, all, much) ⑥配分限定詞 (all, every, each) などがあり、案外よく使っていますよね。ちょっと、難しかったかな？

ここで、ちょっとしたお話を作ってみましたので、その中で限定詞をみていきましょう。(二重下線が限定詞)



I have an apple.



The apple is in my hand.

I like apples. It's my apple.



A dog came in and jumped!

I dropped my apple.

The dog got the apple and...ate it.



Oh! There is no apple.

Whose dog is this?

My friend Donald came in.

“Oh! there you are!” said Donald. “Is this your dog?” I asked him. “Yes, he is mine. We call him Trump. He’s so cute, isn’t he?” “No, I don’t think so. He is a naughty dog.

This dog ate my apple ! ”

“Oh! I’m so sorry. There are many apple trees in my garden. Each tree has beautiful apples. Every apple tastes wonderful. I’ll bring you some apples.” “Thank you Donald, and you! Be a good boy! Trump.”



I have an apple. 私はりんごをひとつ持っています。

※このりんごは、まだ「どのような」という特定の情報がありません。

The apple is in my hand.

※ここで、りんごの話題が続き、最初に「私が持っているりんご」が私の手の中にある特定のものだということがわかります。

I like apples. ※ここでは冠詞がありませんが、私は、りんごならどんなりんごでも好きなので、無冠詞・複数で一般的なりんごの話をしていることを示します。

A dog came in とあるワンちゃんが入ってきます。

この犬がジャンプしたので私は驚いてりんごを落としてしまいました。

The dog got the apple ※この dog は、the がついているので、部屋に入ってきたその犬です。

そして、犬がゲットしたのは私が落とした特定のりんごです。あ～あ、りんごは犬に食べられてしまいます。そして・・・

There is no apple. ※限定詞の no は感覚としては「ゼロ」を意味します。直訳すると、「ゼロのりんごがある」→「りんごがない」。

そこへ、私の友達の دونالدが入ってきます。どうもその犬は Donald のワンちゃん、トランプという名前です。この犬が私のりんごを食べた、ということを

訴えると、Donald は、自分の庭にいっぱいりんごの木があるから、その中からいくつかをもってきてあげるよ、と言ってくれました。

ありがとう Donald! そしてトランプは、よいこにしてね!



いかがでしょうか？

英語特有の語彙や表現に慣れるためには、沢山の英文に触れるのが一番です。自分で簡単な文章を沢山書いてみるのも英語のステップアップにつながります。英語の文章を書くときは、日本語を英語に直すのではなく、伝えたい「イメージ」→「英語」で考えてみましょう！

では、また Vol.2 でお会いしましょう！

SEE YOU SOON!

